

# ハタロウ

第95号

## 生涯学習情報

◎連絡先◎  
生涯学習課  
☎(20)1559

あなたの地域に子どもたちの元気な声が聞こえますか？  
子どもたちを見守る活動を調べてみたら、多くの取り組みがされています。学校を取り巻くボランティアのさまざまな活動の、ほんの一例を紹介します。

### ☆読み聞かせ

鶴枝小の読み聞かせボランティアは、子どもが本に親しむようにとの思いで、平成19年12月に始まりました。現在7人で活動しています。

月2回実施するためどんな本を読むのか相談し、図書館とも連携しながら学年に合った本を選定しています。その本を子どもたちが、目を輝かせ熱心に見、聞いてくれることが一番の励みです。読書に親しむことは心を育てることとても大切なことです。読み聞かせを通して先生以外の地域の人が関わることに意味があると考えています。

メンバーそれぞれが研修会などに参加することで、スキルアップに努めています。

### ☆図書室活動

萩原小の図書室には、業間休みと昼休みに図書委員の子どもたちと一緒に、本の貸し出しをする保護者のボランティアがいます。現在は10人で活動しており、その中の一人、Yさんは2人のお子さんの保護者としてボランティアを足かけ8年続けています。

始めたきっかけは、募集のお知らせを見て子どもの通う学校のことを少しでも知りたかったから。今では、「こ

の本はどこに返しますか？」  
「おすすめの本ってありますか？」  
「〇〇のシリーズってどこにある？」と声を掛けてくれる子どもたちもいて、元気をもらっているそうです。  
またこの図書室には、代々引き継がれて手作りする牛乳パックを使ったブックスタンドがあります。そこに子どもたちに読んでもらいたい本が展示されています。



そんな温かい心配りと一緒に、子どもたちにしつかり本を手渡す皆さんの優しさが感じられました。

### ☆米作り

西小では20年にわたり「水と土と自然を大切にしよう」を合言葉に、湯浅さん指導のもと米作りが行われています。4月の田植え、5月にマガモの放鳥を行い無農薬で稲を育てています。

9月に稲刈とおだかけ、天日干しの後に脱穀とモミすりも児童の手で行い、10月ごろ収穫祭。自ら育てた米と作物で自然の恵みに感謝します。

12月には総仕上げとして4人のボランティアも加わり、しめ飾り作りを行い一連の活動が終わります。

平成23年から被災地大船渡の小学校に収穫した米を届け交流も始まりました。

親子二代で米作りに参加したり、大人になっても合言葉を忘れずにいたり、地域に根ざした活動になっています。

最近では転勤された先生やボランティアの仲間などが、他の地域でも同様の取り組みを始めており、広がりをみせています。

「米の一生を通して色々なことを考えて欲しいとの願い

を込めてこの活動を始めた。環境を大切にする大人になってもらいたい」と湯浅さんの言葉でした。



▲上手に刈れるかな

### ☆登下校見守り

本納地区では辻に立って登校の見守りを長く続けている方たちがいます。その中の一人、伊藤さんはお姑さんの後を引き継ぎ始めました。

お姑さんが辞めたら、そこに立つ人はいなくなる。娘も小学生だったので、それでは自分が…と自然に思われたとのこと。

最近うれしかったのは、そこを通る児童から手紙をもらったことでした。

次頁に続く